

令和7年度 地域支援課のテーマ **「協働」と「前進」**

地域支援課は、市町教育委員会や学校、一人一人の教職員等と**協働**し、未来に向けた学校づくりを支援する。
そのために、変化を恐れず共に**前進**していく。

地域支援課の使命（目的）

～全ての子供・教職員・学校・家庭・地域におけるウェルビーイングを目指して～

○ 市町教育委員会の主体的な取組への支援

- ・国及び県の教育施策を踏まえ、市町教育委員会の取組を後押しする。
- ・市町教育委員会と連帯し、協働して互いの資質向上を図り、広い視野から学校を支える。

○ 人事と指導の一体的な支援

- ・人事管理訪問と指導訪問を中心に、各地区及び各学校の現状を共有し、よさを価値付けるとともに課題に寄り添う。
- ・全ての教職員を応援し、互いに支え合い高め合う職場づくりを、人事・指導の両面から支援する。

《 組織経営の側面から 》

□ 機能的で活力ある組織づくりと人材育成

- ・働き方や組織のあり方を見直し、よりよい関わり合いの中で、生き生きと働くことのできる職場をつくる。
- ・市町や地区、学校、教職員の現状や未来を見据えながら、キャリアステージに応じて活躍できる場を設定することにより、一人一人のよさや特徴が発揮され、学び続ける教職員集団をつくる。

新任職階別研修、特別研修、人事管理訪問、指導訪問、学校等支援研修、人事異動、加配教職員・会計年度任用職員の配置、地域学校総括監・共同学校事務室との連携、学校事務再編

□ 危機管理の徹底と信頼の基盤づくり

- ・子供の命を守るための取組を適切に進めていくことにより、安全・安心な学校をつくる。
- ・危機管理に対する意識を常に高くもち、危機事象に対して迅速に、丁寧に、連携して対応することで、子供の学びの保障、安定した学校体制をつくる。
- ・教職員であることの自覚や誇りと、当事者意識の涵養を核とした危機管理体制の構築により、不祥事を根絶する。
- ・子供や同僚に対して、多様性を認め、豊かな人権感覚、寛容性をもって行動することで、一人一人の居場所がある温かい学校をつくる。

人事管理訪問、学校等支援研修、サポートルーム相談員、コンプライアンス通信、地域学校総括監・校長会・教頭会・共同学校事務室との連携、スクールロイヤー活用事業

□ 地域とともにある学校づくり

- ・地域の特色や資源を活用した教育活動を推進し、子供の姿で学びの過程や成果を発信することにより、地域と互いに信頼、協力する好循環をつくり出す。
- ・地域や保護者と学校教育目標等を共有することにより、地域総がかりで子供を育む体制をつくる。

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の推進

《 教育課程編成の側面から 》

◇ 「未来への種まき」となる授業づくり

- ・学びの過程を具現化した単元構想をつくり、自校における資質・能力の育成を目指す。
- ・『令和版 自分ごと（自分の事）として学ぶ子供』の根底にある「生涯学習の視点」と「子供中心主義の視点（肯定的な子供観）」の理念を共有することにより、誰一人取り残さない教育の実現を目指す。

指導訪問、人事管理訪問、学校等支援研修、教育課題講習会、研修主任研修会、教育課程研修会、研究指定校、市町指導主事指導力向上研修、市町指導主事連携協議会

◇ 命を守る教育の充実

- ・誰もが安心して学べる学習環境のもと、自他共にかけがえのない存在であることを実感し、命の重みをとらえることができる教育を目指す。
- ・教育活動全体をとおして、防災、防犯、事故防止、感染症対策等の安全教育を意図的、計画的に取り組むことで、子供自らが判断し、行動する力の育成を目指す。

指導訪問、研究指定校、SC・SSW活用事業、生徒指導月例報告、市町生徒指導担当者連絡会議、『災害時における子どもの心のケアに係る静岡県版資料』、スクールロイヤー活用事業

◇ 多様性を尊重する教育の充実

- ・互いの多様性を認め、自他共に大切という視点に立った教育活動を行うことにより、豊かな人権感覚の育成を目指す。
- ・特別支援教育の視点に立ち、子供の動き出しに寄り添うことで、一人一人が生き生きと自らの力を最大限に発揮する授業を目指す。

静岡式35人学級、指導訪問、新任特別支援学級担任等研修会、通級指導教室の設置拡大、外国人児童生徒トータルサポート事業